

平成16年度末エンベディッド・バリュー

< 目次 >

エンベディッド・バリューの概要	1頁
1. 平成16年度末のEV	1頁
2. 主要な前提条件	2頁
3. 前提条件を変更した場合の影響	3頁
4. EVの増減要因	3頁
5. ご使用にあたっての注意事項	3頁
6. 第三者機関の意見書	4頁

エンベディッド・バリューの概要

エンベディッド・バリュー（Embedded Value、以下「E V」といいます。）とは、生命保険会社の企業価値・業績を評価する指標の一つで、貸借対照表などから計算される「純資産価値」と保有契約から生じる将来利益の現在価値である「保有契約価値」を合計したものです。

一般に生命保険契約は、契約を獲得してから会計上の利益が計上されるまでには時間を要しますが、E Vでは保有契約から生じる将来の利益を現時点で評価することができることから、現行の財務会計を補完する指標の一つとして有用なものです。

1. 平成16年度末のE V

平成16年度末のE Vは次のとおりです。

なお、平成15年度末のE Vについてもあわせて計算しております。

（単位：億円）

	平成15年度末	平成16年度末	
			増減額
年度末E V	247	268	20
純資産価値（注1）	117	118	1
保有契約価値（注2）	130	149	19
うち新契約価値（注3）	9	7	-2

（注1） 「純資産価値」= 資本の部(公社債に関する株式等評価差額金を除く)
+ 価額変動準備金(税引後) + 危険準備金(税引後)

（注2） 「保有契約価値」は、保有契約から生じる将来利益(税引後)をリスク割引率で割り引いた現在価値です。

（注3） 「新契約価値」は、E V総額のうち、当該年度の新契約に係わる額です。

2. 主要な前提条件

保有契約価値は、各種前提条件を設定して計算しております。

主要な前提条件は次のとおりです。

前提条件	設定方法																															
保険事故発生率	保障種別・保険年度別等の過去の実績および業界統計データに基づき設定																															
失効・解約率	保険種別・保険年度別等の過去の実績に基づき設定																															
経費	過去の実績に基づき設定																															
資産運用利回り	<p>[平成15年度末] 新規資金を20年国債に投資する前提で設定 主な年度の運用利回りは次のとおり</p> <table> <tr><td>1.90%</td><td>(平成16年度)</td></tr> <tr><td>1.94%</td><td>(平成17年度)</td></tr> <tr><td>1.94%</td><td>(平成18年度)</td></tr> <tr><td>1.95%</td><td>(平成19年度)</td></tr> <tr><td>1.95%</td><td>(平成20年度)</td></tr> <tr><td>1.97%</td><td>(平成25年度)</td></tr> <tr><td>1.98%</td><td>(平成30年度)</td></tr> <tr><td>2.00%</td><td>(平成35年度)</td></tr> </table>	1.90%	(平成16年度)	1.94%	(平成17年度)	1.94%	(平成18年度)	1.95%	(平成19年度)	1.95%	(平成20年度)	1.97%	(平成25年度)	1.98%	(平成30年度)	2.00%	(平成35年度)	<p>[平成16年度末] 新規資金を20年国債に投資する前提で設定 主な年度の運用利回りは次のとおり</p> <table> <tr><td>1.94%</td><td>(平成17年度)</td></tr> <tr><td>1.96%</td><td>(平成18年度)</td></tr> <tr><td>1.96%</td><td>(平成19年度)</td></tr> <tr><td>1.96%</td><td>(平成20年度)</td></tr> <tr><td>1.98%</td><td>(平成25年度)</td></tr> <tr><td>1.98%</td><td>(平成30年度)</td></tr> <tr><td>1.99%</td><td>(平成35年度)</td></tr> </table>	1.94%	(平成17年度)	1.96%	(平成18年度)	1.96%	(平成19年度)	1.96%	(平成20年度)	1.98%	(平成25年度)	1.98%	(平成30年度)	1.99%	(平成35年度)
1.90%	(平成16年度)																															
1.94%	(平成17年度)																															
1.94%	(平成18年度)																															
1.95%	(平成19年度)																															
1.95%	(平成20年度)																															
1.97%	(平成25年度)																															
1.98%	(平成30年度)																															
2.00%	(平成35年度)																															
1.94%	(平成17年度)																															
1.96%	(平成18年度)																															
1.96%	(平成19年度)																															
1.96%	(平成20年度)																															
1.98%	(平成25年度)																															
1.98%	(平成30年度)																															
1.99%	(平成35年度)																															
実効税率	直近の実績値(36.15%)																															
ソルベンシー・マージン比率	1000%を維持する																															
リスク割引率	<p>8% 将来利益を現在価値に割り戻す際の率で、リスクフリーレート(20年国債利回り)にリスク・プレミアム(6%)を上乗せした数値をもとに設定 (20年国債利回り:平成15年度...約1.96%、平成16年度...約1.93%)</p>																															

3. 前提条件を変更した場合の影響

主要な前提条件を変更した場合のE Vへの影響は次のとおりです。

(単位：億円)

前提条件の変更	E Vへの影響	E V
保険事故発生率を1.1倍にする	- 1 9	2 4 8
失効・解約率を1.1倍にする	- 1	2 6 7
経費(契約維持に係わる分)を1.1倍にする	- 7	2 6 1
資産運用利回り(新規投資のみ)を0.25%引き下げる	- 1 1	2 5 7
資産運用利回り(新規投資のみ)を0.25%引き上げる	1 1	2 8 0
ソルベンシー・マージン比率を800%にする	3	2 7 2
リスク割引率を7%にする(1%引き下げ)	1 2	2 8 1
リスク割引率を9%にする(1%引き上げ)	- 1 0	2 5 7

4. E Vの増減要因

E Vの平成15年度末から平成16年度末への増減要因は次のとおりです。

(単位：億円)

新契約価値	7
平成15年度末E Vからの期待収益	1 1
前提と実績の差	2
合 計	2 0

5. ご使用にあたっての注意事項

E Vの計算においては、リスクと不確実性を伴う将来の見通しを含んだ前提条件を使用するため、将来の実績がE Vの計算に使用した前提条件と大きく異なる場合があります。また、実際の市場価値は投資家が様々な情報に基づいて下した判断により決定されるため、E Vから著しく乖離することがあります。これらの理由により、E Vは生命保険株式会社の企業価値を評価する唯一の指標ではなく、ご使用にあたっては十分に注意を払っていただく必要があります。

6. 第三者機関の意見書

当社は、専門的知識を有する第三者機関（アクチュアリー・ファーム）であるティリングハストに計算結果に使用した前提および評価方法、ならびに計算結果の妥当性について検証を依頼し、以下の意見書を受領しています。

富士生命の2004年3月31日現在および2005年3月31日現在のエンベディッド・バリュウーについてのティリングハストの意見

ティリングハスト（タワーズペリンの金融サービス・コンサルティング部門。以下「ティリングハスト」）は富士生命保険株式会社（以下「富士生命」）によって計算された2004年3月31日現在および2005年3月31日現在の富士生命のエンベディッド・バリュウーの検証を行いました。

ティリングハストは、富士生命がエンベディッド・バリュウー計算に適用した前提および評価方法、ならびに富士生命が計算した結果について検証を行いました。

ティリングハストの意見は以下のとおりです。

評価方法は、現在まで広く世界的に用いられてきている保険数理的企業価値評価手法（決定論的シナリオによる将来収支予測結果を割引率を適用して計算基準日現在の価値を求める方法に基づく手法）に則っています。

前提は、富士生命の事業の特性およびその使用目的に照らして妥当に設定されています。

計算結果は、これら適用された評価方法および設定された前提のもとで求められた結果として妥当です。

ティリングハストによる検証は、富士生命のために行われたものであり、検証を行うにあたり、ティリングハストは富士生命より提供された数多くの資料に大きく依拠しています。これら資料についてのティリングハストによる独立した確認作業は行われていません。

エンベディッド・バリュウーの計算で使用する将来予測は、現在および将来の事業環境について設定された様々な前提に基づいて計算されますが、いかに前提が妥当に設定されていたとしても、実際の結果は予測結果から乖離するものであることにご留意ください。

また、エンベディッド・バリュウーは市場価値についての意見を表明することを意図するものではなく、そのように解釈されるべきものでもありません。

以上